



ほりかわ ひでき
堀川 秀樹〔さばえ結の会〕



➤ 高齢者の生きがい活動の取組について

問 高齢者に対する生きがい活動も様々なものがあると思うが、鯖江市にはどのような取組があるのか。

答 高齢者生きがい講座の実施や、高齢者学びバスの運行、さらに、全国でもほぼ例を見ない本市独自の高齢者の学びの場である高年大学を開講し、生涯学習の場の提供を行っている。

問 コロナ禍以降の取組はどのように変わっているのか。

答 高齢者生きがい講座においては、新規や再開の講座も含め、コロナ禍前の講座数まで戻している。健康寿命ふれあいサロンについても、高齢者と子どもが一緒に楽しむ交流活動を今年度から再開している。また、高年大学では、スポーツ大会や学園祭の開催を復活し、コロナ禍前の活発な活動に向けて取り組んでいる。



にしの ゆか
西野 有香〔SABA LABO〕



➤ 嚮陽会館複合交流施設整備の基本設計について

問 「市民主役所」という以上、鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例や市民主役条例にのっとり、市民がしっかりと関わっていくものとなるよう期待している。基本設計にも市民の声を酌み取り、生かしていくことが大切だが、市の方針は。

答 今後も市民の皆さんとしっかり関わりながら課題を整理し、市民主役所構想を推進する場として、市民が主役となって運営し、子どもから大人まで多様な人が集い、市民主役で日本一活気あるまちにふさわしい施設になるよう、創造的な整備に取り組んでいく。

➤ パートナーシップ、ファミリーシップ宣誓制度について

問 公立丹南病院の職員の理解度と職員研修等の実績は。また、宣誓しパートナーとなることでできるようになることの見える化が大事では。

答 入院や面会を担当する部署でも約4割の理解であり、職員研修は実施していない状況。今後、市と病院が連携して、制度の普及推進が必要と考える。受給できる行政サービスについては、全ての申請について整理し追加掲載する。

問 多様な選択の一つである事実婚も制度に含むべきだと考える。あわせて、宣誓する2人の子や親も含めたファミリーシップ制度導入を求める。

答 制度対象の拡充とともに、ファミリーシップ制度化についても年度内に進めていく。



かとう まさる
加藤 優〔公明党〕



➤ 防災・減災の推進について

問 木造住宅耐震化率県内一番の要因は。

答 旧耐震住宅への戸別訪問による担当者の丁寧な説明を通じて、市民の皆様の理解が進んだことで、耐震改修や除却が進んだこと。また、新築住宅が増加したことで耐震化率が上昇したものと考えられる。

問 1980年以前に建てられた空き家への対策と耐震化の現状は。

答 市内には現在709戸の空き家が存在しており、そのうち約7割は1980年以前の古い建物となっている。耐震化の状況は専門家による耐震診断が必要となることから、市としては把握できていない。

➤ 子どもの弱視に関する早期発見等について

問 3歳児健診において、弱視などの早期発見はどのように進められているか。

答 家庭で行う1次検査には、アンケート方式の問診と保護者が行う視力検査がある。次に、健診当日に行う2次検査として、医師の診察と据置き型屈折検査機器による屈折検査があり、結果によっては眼科医療機関での精密検査を実施している。

問 目の発達についての保護者への啓発は。

答 必ず3歳児健診での検査を受けるよう勧めている。また、全ての市民を対象に、広報さばえ、図書館展示、健康フェアなどの機会を通して、目の健康づくりの一環として周知啓発をしている。

【その他の質問】

带状疱疹ワクチン助成の取組